

1 正しい組合せはどれか。

- a プロラクチノーマ ————— 不妊
- b クッシング病 ————— 巨大舌
- c 神経性食思〈欲〉不振症 ————— 体重増加
- d 末端肥大症 ————— 満月様顔貌
- e 中枢性尿崩症 ————— 皮膚色素沈着

2 更年期に関する記述で正しいのはどれか。

- a 閉経してから骨塩量が低下し始める。
- b プロラクチンが上昇したため月経不順となった。
- c 閉経した後もエストラジオールは分泌されている。
- d ギナトトロピンが上昇し始めたので月経不順となった。
- e エストロゲンの分泌は一度低下しはじめたら増えることはない。

3 麻疹ウイルスについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a DNAウイルスである。
- b 発疹からウイルスが分離される。
- c 遅延型アレルギー反応を抑制する。
- d 亜急性硬化性全脳炎(SSPE)を続発することがある。
- e X連鎖無ガンマグロブリン血症の患者に感染すると重篤となる。

4 JAK2遺伝子の点変異により617番目のアミノ酸バリンがフェニルアラニンに置換する異常が認められる疾患はどれか。

- a 多発性骨髄腫
- b 濾胞性リンパ腫
- c 真性赤血球増多症
- d 慢性好酸球性白血病
- e 急性前骨髄球性白血病

5 神経線維腫症1型(von Recklinghausen病)について正しいのはどれか。

- a 葉状白斑を認める。
- b 顔面の血管腫を認める。
- c 両側の聴神経腫瘍を認める。
- d 常染色体劣性遺伝性疾患である。
- e 遺伝カウンセリングの対象になる。

6 労作性狭心症の治療について正しいのはどれか。

- a 経皮的冠動脈形成術後も薬物療法は必要である。
- b ワーファリンを用いた抗凝固療法が一般的である。
- c 経皮的冠動脈形成術は薬物療法よりも予後を改善する。
- d 薬剤溶出性ステントは定期的な入れ替え術が必要である。
- e 新規発症の場合、安定化するまで心臓カテーテル検査は避けるべきである。

7 膵腫瘍について誤っているのはどれか。

- a 膵管癌の主訴は腹痛が最も多い。
- b 膵癌の診断時に80%は手術不能である。
- c グルカゴノーマは高度の下痢が特徴的である。
- d 膵癌の腫瘍マーカーとしてCA19-9の感度が高い。
- e 膵癌の化学療法としてGemcitabineが用いられる。

8 慢性尿細管間質性腎炎の原因となるのはどれか。

- a アミロイド腎症
- b 多発性嚢胞腎
- c Sjögren症候群
- d 溶血性尿毒症症候群
- e Goodpasture症候群

9 血清を冷蔵庫(4℃)に一晩置くと上部にクリーム層がみられる脂質異常症はどれか。2つ選べ。

- a I型
- b IIa型
- c III型
- d IV型
- e V型

10 正しいのはどれか。

- a オウム病では、 β -ラクタム系抗菌薬が無効である。
- b ツツガムシ病では、採血検査で好酸球数の増加を来す。
- c マイコプラズマ肺炎では、寒冷凝集素価の低下が補助診断となる。
- d 発疹チフスは、ネズミノミが媒介して感染する人畜共通感染症である。
- e クラミドフィラ肺炎では、胸部エックス線写真で空洞影を伴うことが特徴である。

11 免疫不全患者に**使用できない**ワクチンはどれか。

- a BCG ワクチン
- b 肺炎球菌ワクチン
- c 髄膜炎菌ワクチン
- d 不活化ポリオワクチン
- e 不活化インフルエンザワクチン

12 痔瘻について正しいのはどれか。3つ選べ。

- a 肛門周囲膿瘍とは成因が異なる。
- b 成人の痔瘻は自然治癒することが多い。
- c クロウン病に合併するものでは難治性なものが多い。
- d 成因としては肛門陰窩からの細菌感染が重要である。
- e 長期間存在するものでは粘液癌を発生することがある。

13 抗菌薬が有効なのはどれか。

- a ウエストナイル熱
- b 伝染性単核球症
- c かぜ症候群
- d 日本脳炎
- e 百日咳

14 正期産で出生した新生児の所見で正常と判断して良いものはどれか。

- a 心拍数 60/分
- b 呼吸数 70/分
- c 体温 35.2℃
- d 大泉門膨隆
- e Babinski 反射陽性

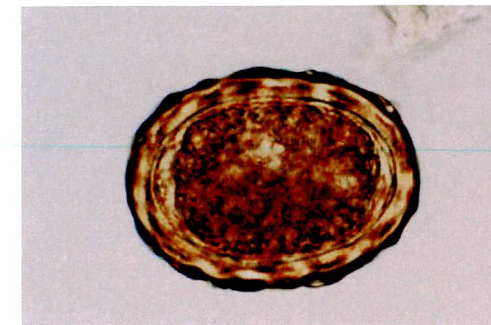
15 正しいのはどれか。

- a 子宮筋腫による過多月経は筋層内筋腫で最も多い。
- b 子宮腺筋症に子宮筋腫が合併することは稀である。
- c 腺細胞の異型の有無により子宮内膜増殖症と子宮内膜異型増殖症に分類される。
- d 進行卵巣癌（Ⅲ期・Ⅳ期）の5年生存率はおよそ40%である。
- e 子宮頸癌ワクチンは子宮頸部異形成の状態であれば治療的效果を期待できる。

16 糞便検査で検出された $60 \times 45 \mu\text{m}$ の虫卵を写真に示す。

感染しているのはどれか。

- a 回 虫
- b 鉤 虫
- c 肝吸虫
- d 広節裂頭条虫
- e 日本住血吸虫



虫卵の写真

17 正しいのはどれか。

- a 大麻には身体依存がある。
- b コカインの吸入は経鼻が多い。
- c アンフェタミン依存には離脱症状がある。
- d モルヒネの身体依存形成には数か月を要する。
- e ペンタゾシンとバルビツレートには交差耐性がある。

18 尿路結石症について正しいのはどれか。

- a 夏季より冬季に好発する。
- b 下部尿路結石が95%を占める。
- c 尿酸結石はエックス線透過性である。
- d 小児は体外衝撃波碎石術の禁忌である。
- e シュウ酸カルシウム結石はエックス線透過性である。

19 カンピロバクター食中毒について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 偏性嫌気性菌である。
- b 毒素型の食中毒である。
- c 重症例は血便を呈する。
- d 鶏肉や牛肉が原因食品であることが多い。
- e 感染症法により三類感染症に指定されている。

20 パニック障害にみられるのはどれか。

- a 世界没落体験
- b 強迫観念
- c 罪業妄想
- d 尖端恐怖
- e 予期不安

21 上咽頭癌について正しいのはどれか。

- a 頸部リンパ節転移はまれである。
- b EBウイルスとの関連が深い。
- c 早期に嚥下障害が出現することが多い。
- d 放射線に感受性が低い。
- e 食道癌を合併することが多い。

22 38歳の女性。37.4℃の発熱と前頸部痛を主訴に来院した。10日前より感冒様症状があり、市販の風邪薬を内服していた。来院時、甲状腺左葉に圧痛を伴う結節性腫瘍を認めた。頸部皮膚に発赤はみられない。赤沈1時間値90 mm、CRP 8 mg/dl、TSH <0.01 μ U/ml (基準0.27~4.20)、F-T3 8.2 pg/ml (基準2.73~4.50)、F-T4 3.4 ng/dl (基準1.00~1.80)、抗サイログロブリン抗体陰性、抗甲状腺ペルオキシターゼ抗体陰性であった。

この患者に認められるのはどれか。

- a 眼球突出
- b 機能的収縮期雑音
- c ヨード摂取率上昇
- d 下咽頭梨状窩瘻孔
- e 前脛骨部粘液水腫

23 3歳の男児。運動障害を主訴に来院した。乳児期からおむつにレンガ色の粉末が付着していることが多かった。1歳ころから、つかまり立ちができなくなり、お坐りもできなくなってしまった。その後、アトローゼ様の不随意運動が次第に強く出現するようになってきた。内反尖足傾向となり臥位姿勢となった。知的にも退行がみられるようになった。尿所見：蛋白(-)、潜血2+、沈渣に赤血球20~30/1視野。血清生化学所見：尿酸11.2 mg/dl。

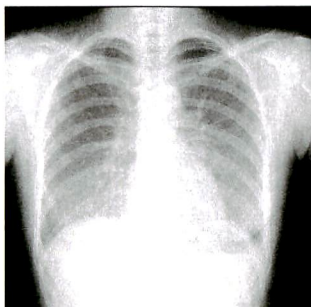
認められる症候はどれか。

- a 難聴
- b 視力障害
- c 皮膚炎
- d てんかん
- e 自傷行為

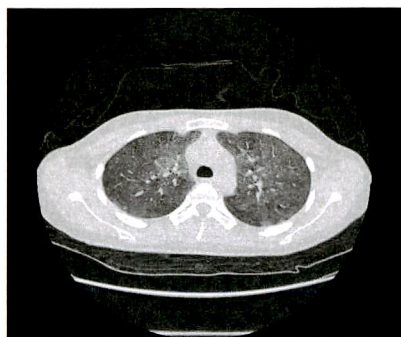
24 29歳の女性。3年前に築20年の木造家屋へ転居をした後から、7月頃に乾性咳嗽を自覚するようになったが、2～3か月後には自然に改善した。今年も同じ頃より咳嗽が続き、昨年より咳嗽がひどく、近医を受診し鎮咳薬を処方されるも症状が改善しないため当院を受診した。受診時の胸部エックス線写真と胸部単純CTを示す。喫煙歴はなく、ペットの飼育もない。

以下のうち正しいのはどれか。

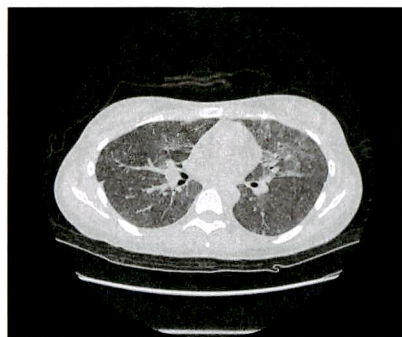
- a ツベルクリン反応を行うと、陽性を示す。
- b 呼吸機能検査を行うと、拘束性換気障害を示す。
- c 血液検査を行うと、好酸球数の増加を認める。
- d 血液検査を行うと、非特異的IgE抗体の増加を認める。
- e 気管支鏡検査を行うと、肺胞洗浄液中の好中球数の増加を認める。



胸部エックス線



胸部CT

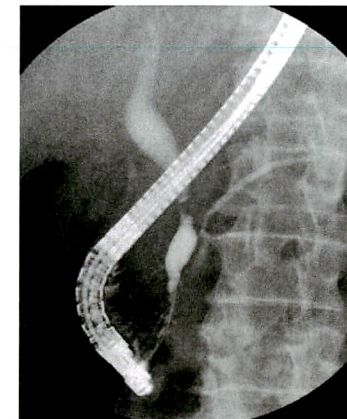


胸部CT

25 63歳の男性。生来健康であったが、尿の濃染を自覚して来院した。腹部は平坦、軟で圧痛はなかった。体温36.5度。血液所見で総ビリルビン7.5 mg/dl、直接ビリルビン5.8 mg/dl、AST 85 IU/l、ALT 95 IU/l、ALP 1,240 IU/l（基準：80～260）であった。ERCP検査を示す。

考えられる疾患はどれか。

- a 肝外胆管癌
- b 体質性黄疸
- c 腫瘍形成性膵炎
- d 原発性硬化性胆管炎
- e ファーター乳頭部癌



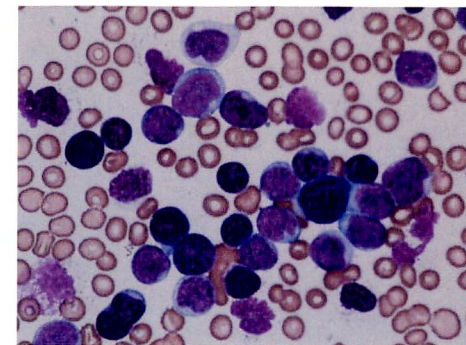
ERCP検査

26 11歳の女児。数週間前からだるさを訴えており、2日前から鼻出血があり止血しにくかったため来院した。体温38.1℃、眼瞼結膜は貧血を認める。頸部に1.5 cm大のリンパ節を認めるが圧痛はない。肝臓を右肋骨弓下に3 cm触知する。血液検査所見：赤血球320万、Hb 9.4g/dl、白血球128,000、血小板6万、AST 40単位、ALT 26単位、LDH 1,600単位。

骨髓血塗抹May-Giemsa染色標本を示す。

この患児の予後不良因子はどれか。2つ選べ。

- a 年齢
- b リンパ節腫脹
- c 白血球数
- d 性別
- e LDH値



骨髓血塗抹May-Giemsa染色標本

- 27 54歳の女性。1年前より月経不調で出血量も持続期間も短くなっている。最近、不眠、集中力低下、意欲低下を認め、徐々に会話や外出も少なくなってきたため、家族に付き添われ受診した。

診断に有用でないのはどれか。

- a 記銘力検査
- b 頭部MRI検査
- c 家族背景の聴取
- d Rorschachテスト
- e エストロゲン量測定

- 28 78歳の男性。肺炎のため入院加療中に、第Ⅱ世代セフェム系抗菌薬の投与を受けていた。第10病日から腹痛と38℃の発熱が出現。また10回/日の下痢も認めるようになったため下部消化管内視鏡検査を行った。S状結腸の内視鏡写真を示す。

本疾患の原因菌として最も考えられるのはどれか。

- a *Vibrio cholerae*
- b *Yersinia pestis*
- c *Campylobacter jejuni*
- d *Clostridium difficile*
- e *Vibrio parahaemolyticus*

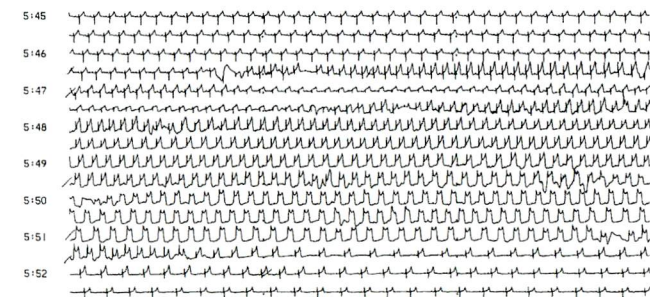


S状結腸の内視鏡写真

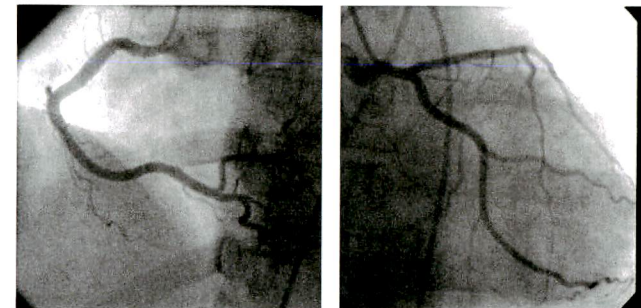
- 29 52歳の男性。2か月前から、就寝時、夜間から早朝に、冷汗を伴う胸部圧迫感を自覚するようになった。発作の持続時間は5から10分程度で、日中労作時に胸部症状の出現はない。発作時のホルター心電図と硝酸イソソルビド冠注後の冠動脈造影所見を以下に示す。

正しいのはどれか。

- a 経皮的冠動脈形成術の適応である。
- b 運動負荷で発作が誘発されることはない。
- c カルシウム拮抗薬の投与が治療に有用である。
- d 恒久的ペースメーカー植え込み術の適応である。
- e 薬剤溶出性ステントよりもベアメタルステントの使用が適している。



ホルター心電図

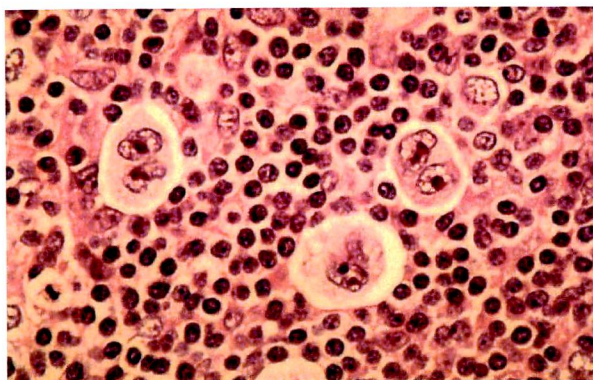


冠動脈造影所見

30 30歳の男性。1か月前より続く発熱と徐々に増大し数珠状に連なる右頸部リンパ節腫大を主訴に来院した。日常生活に大きな支障はない。海外渡航歴やアレルギー歴はない。リンパ節生検を施行したところ、図（Hematoxylin-Eosin染色）のような所見であった。

次に行うべきものは、どれか。

- a 抗菌薬投与
- b 全身放射線照射
- c ステロイド大量療法
- d 多剤併用大量抗がん薬治療
- e 画像検査などを用いた、病期診断

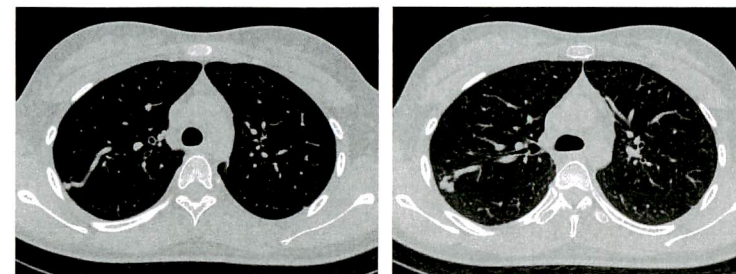


Hematoxylin-Eosin 染色

31 54歳の女性。健診にて胸部エックス線検査で異常陰影を指摘されて受診した。胸部造影CT画像を示す。

この疾患を治療することで改善、予防できる疾患はどれか。2つ選べ。

- a 肺 癌
- b 脳梗塞
- c 呼吸不全
- d 肺血栓塞栓症
- e 深部静脈血栓症



胸部造影CT画像

32 55歳の男性。本朝に突然、右母趾中足趾関節の激痛が出現し、来院した。身長165 cm、体重75 kg、体温37.2℃。脈拍102/分、整。血圧164/92 mmHg。心音と呼吸音に異常を認めない。腹部は平坦、軟。右母趾球部に著明な発赤、圧痛を伴う腫脹を認める。尿所見：蛋白1+、糖(-)、沈渣に赤血球20~30/1視野。血清生化学所見：尿素窒素23 mg/dl、クレアチニン0.9 mg/dl、尿酸8.8 mg/dl。腹部超音波検査で腎盂に結石を認めた。

最も適切な治療薬はどれか。

- a 利尿薬
- b 消炎鎮痛薬
- c 尿アルカリ化薬
- d 尿酸排泄促進薬
- e 尿酸生成抑制薬

- 33 30歳の女性。これまで健診などで異常を指摘されたことはない。微熱、咽頭痛のため5日前から非ステロイド系消炎鎮痛薬を服用した。昨日から発熱、関節痛、四肢・体幹の紅斑、尿量減少を認めたため受診。

脈拍84/分。血圧150/80 mmHg。心音純、肺野清、腹部異常なし。背部叩打痛なし。

下腿浮腫あり。両下肢に扁平な紅斑の多発を認める。

尿所見：比重1.010、蛋白(-)、潜血(-)、尿糖(-)、沈渣：白血球15-20/1視野、白血球円柱+。

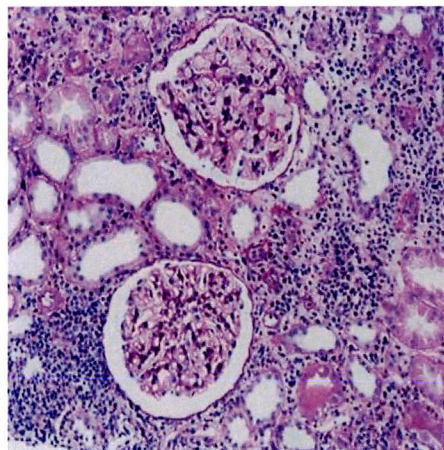
尿浸透圧330 mOsmH₂O/kg、尿中Na 30 mEq/l。

血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dl、アルブミン4.2 g/dl、尿素窒素30 mg/dl、クレアチニン2.5 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 5.0 mEq/l、Cl 96 mEq/l、Ca 9.0 mg/dl。

血液、尿培養陰性。本例の腎生検所見(PAS染色、200倍)を示す。

適切な治療はどれか。

- a 輸液
- b 血漿交換
- c 血液透析
- d 抗菌薬投与
- e 消炎鎮痛薬服用中止



腎生検所見

- 34 56歳の男性。S状結腸癌の診断で、S状結腸切除術とリンパ節郭清の手術を受けた。術後の病理学的検査の結果は、中分化管状腺癌で壁深達度は漿膜下層であった。リンパ節転移及び遠隔転移は認めなかった。

正しいのはどれか。

- a Dukes分類でBとなる。
- b 大部分が家族性発症である。
- c 病期診断に用いる情報が足りない。
- d 中分化腺癌なので予後不良である。
- e リンパ節転移がないので早期癌である。

- 35 10か月の乳児。夕方より機嫌が悪く、急に泣きだすようになった。抱いてあやしているうちに寝るが、また泣き出すことを繰り返すため来院した。右上腹部に小児手拳大の腫瘍を触れ、浣腸すると血便を認めた。

この症例について最も適切なのはどれか。

- a 回腸回腸型が多い。
- b 器質的原因が多い。
- c Dance徴候が陽性。
- d 無胆汁性嘔吐を繰り返す。
- e 外科的治療はRamstedt手術となる。

- 36 80歳の女性。半年前より少量の不正出血と褐色帯下を認めるようになり2～3日前に軽度の右下腹部痛も出現したため来院した。内診上膣分泌液は血性、子宮頸部に3cm程の腫瘍を認め、膣壁にも1cm程の浸潤を認めた。直腸診にて子宮傍組織は柔らかく異常所見は認めなかった。

この時点において考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a 子宮頸癌Ⅱa期である。
- b 子宮頸癌Ⅱb期である。
- c MRIは臨床進行期決定に適応する。
- d 円錐切除は有効な診断方法である。
- e 治療には放射線療法を用いる。

- 37 10歳の男児。右下肢痛のため家族に伴われて来院した。4か月前から誘因なく右大腿部痛が出現した。痛みは安静時、運動時ともにあり、夜間に増強する。非ステロイド性消炎鎮痛剤により著明に痛みは軽減する。右下肢の皮膚、筋および関節に異常を認めない。右大腿骨のエックス線検査を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 骨肉腫
- b 類骨骨腫
- c 軟骨肉腫
- d 骨軟骨腫
- e 好酸球形肉芽腫

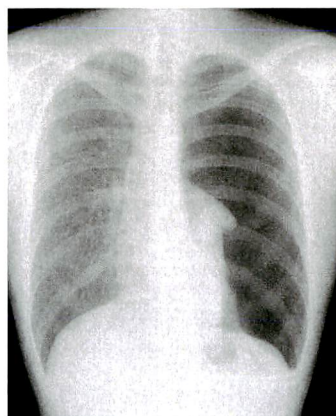


右大腿骨のエックス線検査

- 38 16歳の男子。ジョギング中、突然の左胸痛と呼吸困難にて来院した。来院時の胸部エックス線写真を示す。

身体所見として正しいのはどれか。

- a wheezeの聴取
- b 頸動脈の怒張
- c II音固定性分裂
- d 声音振盪の減弱
- e 肺胞呼吸音の増強



胸部エックス線写真

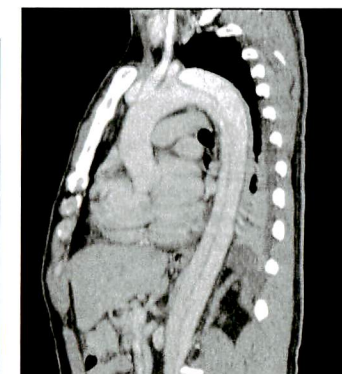
- 39 72歳の男性。高血圧に対して降圧薬内服中であった。突然激しい背部痛が出現し、持続するため救急車で救命センターを受診した。来院時、心拍数96/分、整。血圧182/92 mmHg、意識は清明であった。心電図は洞調律で、ST-T変化はなく、胸部エックス線写真では軽度心陰影拡大を認めたが、肺野に異常所見は認めなかった。胸部造影CT検査を示す。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 降圧治療を開始する。
- b 緊急手術の適応である。
- c 直ちに血管造影を行う必要がある。
- d 発症後24時間以内に50%以上が死亡する。
- e スtentグラフト治療の適応となる可能性がある。



胸部造影CT検査



胸部造影CT検査

- 40 6歳、小学1年の男児。幼児期発達で始語1歳8か月と軽い言葉の遅れあり。年少より幼稚園に入園したが他児と比べ落ち着きのなさが目立った。家族との外出でよく迷子になった。就学後も授業中着席できず教室を歩き回り、集中も続かなかったため精神科外来を受診した。頭部画像検査、脳波検査、知能検査、血液生化学検査で異常を認めなかった。

治療薬はどれか。2つ選べ。

- a バロキセチン
- b カルバマゼピン
- c ハロペリドール
- d アトモセチン
- e メチルフェニデート

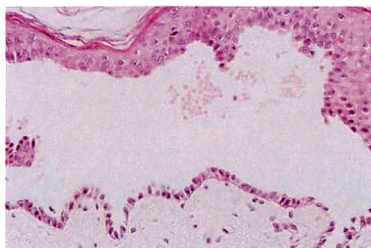
41 50歳の男性。1か月前から出現し、全身に拡大する皮疹を主訴に来院した。胸部や背部に類円形の痂皮を有するびらん面が多発し、口腔内にもびらんや潰瘍を認めた。背部および口腔内の写真と背部の生検組織のH-E染色標本を示す。

この病理組織学的所見に対応する蛍光抗体直接法の所見はどれか。

- a 表皮細胞間へのIgGの沈着
- b 表皮細胞間へのIgEの沈着
- c 表皮基底膜部へのIgMの沈着
- d 真皮上層の血管壁へのIgAの沈着
- e 真皮上層の血管壁へのC3の沈着



背部および口腔内の写真



生検組織のH-E染色標本

42 60歳の男性。日本酒3合以上/日、約35年間の飲酒歴あり。5年前から近医で肝障害の治療を受けていた。約1か月前から腹部膨満が出現。ここ1か月で7kgの体重増加あり。身体診察所見で手掌紅斑と前胸部にクモ状血管腫を認めた。

今後起こる可能性が低い病態はどれか。

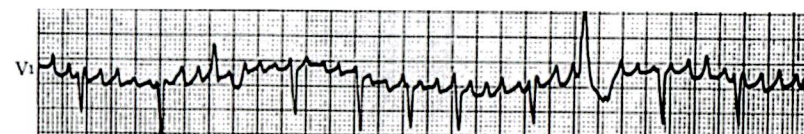
- a 血清アルブミン値の低下
- b 血清アンモニア値の上昇
- c 血清総ビリルビン値の上昇
- d 血清総コレステロール値の低下
- e 腹水中の好中球数が $250/\mu\text{l}$ 以下

43 51歳の男性。以前より心雑音を指摘されていたが放置していた。1か月前、心不全のため前医に入院、薬物療法のみで軽快し退院している。今後の治療法の精査のため当院に紹介受診となった。

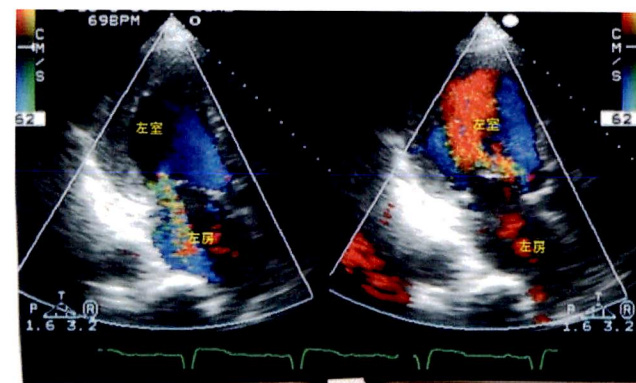
現症：身長169cm、体重58kg。脈拍数92/分、不整。血圧158/72 mmHg。SpO₂ 92% (room air) 心尖部にLevineⅢ度の汎収縮期雑音、胸骨左縁第4肋間にLevineⅢ度の拡張期雑音を聴取。下腿浮腫を認める。外来におけるモニター心電図および心臓超音波検査を示す。

治療として不適切なのはどれか。

- a 利尿薬投与
- b 僧帽弁置換術
- c ワルファリン投与
- d ジゴキシン投与
- e アンギオテンシン変換酵素阻害薬(ACE-I)投与



モニター心電図



心臓超音波検査

44 55歳の男性。心筋梗塞の既往あり。夏の夜に徹夜でテレビを見て明け方就寝。クーラーをつけず、正午近くに起床。全身の発汗が著明で、両下肢が動かないことに気づき、救急車にて来院した。

受診時 体温38.1℃。脈拍118/分、整。血圧100/50 mmHg。意識 JCS I-1。上肢の麻痺はないが、両下肢は膝立て不能で、両側でBabinski反射を認める。

血液検査：白血球 10,100 μ l、赤血球 589 万、Hb 17.1 g/dl、Ht 58.0 %、血小板 38 万、血液生化学検査：CK 330 U/l、Na 148 mEq/l、K 4.1 mEq/l、Cl 110 mEq/l、CRP 1.1 mg/dl (基準：0.3 以下)

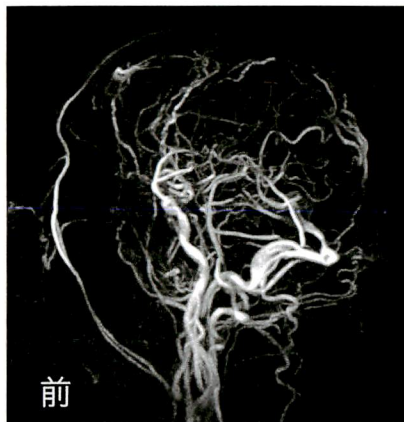
頭部MRI T2強調画像とMR静脈撮影を図に示す。

診断はどれか。

- a 脊髄梗塞
- b 周期性四肢麻痺
- c 急性散在性脳脊髄炎
- d 前大脳動脈領域梗塞
- e 上矢状静脈洞血栓症



T2 強調画像



MR 静脈撮影

45 67歳の女性。1 か月前からの労作時の息切れ、動悸を主訴に来院した。

血液所見：赤血球 280 万、Hb 7.5 g/dl、Ht 35 %、白血球 2,200 (好中球 16 %、好酸球 2 %、単球 8 %、リンパ球 74 %)、血小板 30 万。染色体検査 (Gバンド法) で、5q- (20 細胞中 20 個) の所見を認めた。

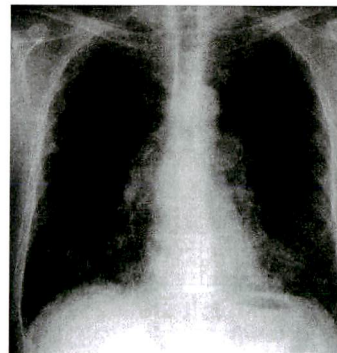
血液検査で低下が予測されるのはどれか。

- a 葉酸
- b フェリチン
- c ビタミンB12
- d 間接ビリルビン
- e 好中球アルカリフォスファターゼ指数 (NAPスコア)

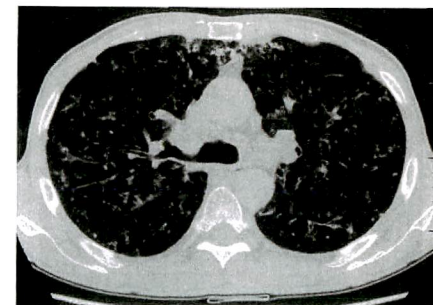
46 52歳の男性。労作時呼吸困難を主訴に来院した。36歳の頃から湿性咳嗽を自覚していた。2～3年前から坂道や階段を上る時に呼吸困難を自覚するようになった。10歳代の時から慢性副鼻腔炎があり、2回の手術歴がある。喫煙歴はない。身長168 cm、体重54 kg、体温36.7℃。脈拍78/分、整。血圧116/70 mmHg。軽度のばち指を認める。両側胸部に吸気時のcoarse cracklesと呼気時のwheezesを聴取する。血液所見：赤沈37 mm/1時間、白血球数9,600。血清生化学所見：IgG 1,860 mg/dl (基準960～1,960)、IgA 640 mg/dl (基準110～410)、IgM 240 mg/dl (基準65～350)。免疫学所見：CRP 4.3 mg/dl (基準0.3未満)、寒冷凝集反応512倍 (基準128以下)。喀痰から緑膿菌が検出された。胸部エックス線写真、胸部CTを示す。

治療として適切なのはどれか。

- a シロリムス
- b エリスロマイシン
- c ニューキノロン系抗菌薬
- d 吸入抗コリン薬
- e 吸入副腎皮質ステロイド薬



胸部エックス線写真



胸部CT

47 50歳の男性。体重の減少と動悸を主訴に受診した。

特記すべき既往歴、家族歴はなし。

身長 174 cm、体重 60 kg。1年前の健診では 68 kgであった。

脈拍 96/分・整。血圧 200/122 mmHg。随時血糖 274 mg/dl、Na 138 mEq/l、K 4.0 mEq/l、Cl 103 mEq/l、Ca 10.9 mg/dl（基準 8.4-10.0）、P 2.4 mg/dl（基準 2.5-4.5）、HbA1c 8.3 %（基準 4.3-5.8）、血中カテコラミン 3 分画：ドパミン 0.05 ng/ml（基準 0.03>）、ノルアドレナリン 11,000 ng/ml（基準 0.06-0.5）、アドレナリン 800 ng/dl（基準 0.12 ng/ml/>）。

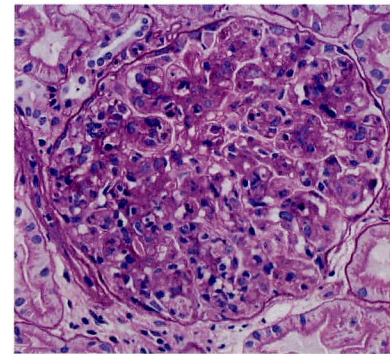
腹部単純CTでは 30 mm 大の左副腎腫瘍を認めた。

診断のために必要な検査はどれか。2つ選べ。

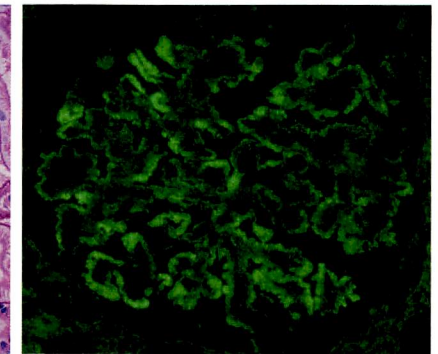
- a MIBGシンチグラム
- b 高張食塩水負荷試験
- c 尿中メタネフリン定量
- d 経口ブドウ糖負荷試験
- e デキサメサゾン負荷試験

48 58歳の男性。両下肢浮腫を主訴に来院した。40歳から健康診断で肝機能異常を指摘されていた。

3週間前より両下肢のむくみが出現し体重も 3 kg 増加した。血圧 146/84 mmHg、脈拍 78/分、整。両下肢の前脛骨部に圧痕を伴う浮腫を認める。尿所見：蛋白 3+、潜血 2+、赤血球 10-20/1 視野、顆粒円柱陽性。血清生化学所見：総蛋白 6.0 g/dl、アルブミン 3.0 g/dl、尿素窒素 24 mg/dl、クレアチニン 1.0 mg/dl、総コレステロール 278 mg/dl、総ビリルビン 0.8 mg/dl、AST 52 IU/l、ALT 46 IU/l。腎生検PAS染色標本(400倍)及び蛍光抗体C3染色標本(400倍)を示す。



腎生検PAS染色標本(400倍)



蛍光抗体C3染色標本(400倍)

診断はどれか。

- a 膜性腎症
- b 急性糸球体腎炎
- c 巣状糸球体硬化症
- d 腎アミロイドーシス
- e 膜性増殖性糸球体腎炎

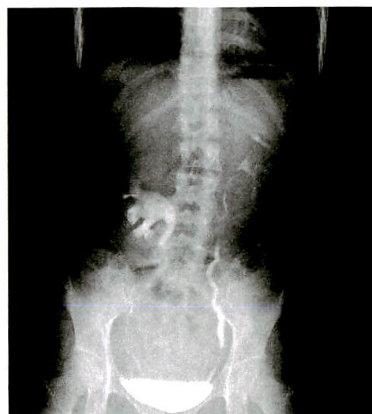
49 30歳の女性。腹痛と嘔吐を主訴に来院した。2週間前に頻尿が出現した。10日前より右背部痛と37℃台の微熱が持続している。5日前より腹痛が出現し、嘔吐を繰り返している。口腔内に無痛性のアフタを認める。尿所見：蛋白（-）、潜血3+。血液所見：白血球8,900（リンパ球13.7%）。血液生化学所見：尿素窒素14 mg/dl、クレアチニン0.6 mg/dl。CRP 0.5 mg/dl。免疫学所見：抗核抗体160倍（基準20以下）、抗DNA抗体5 IU/ml（基準10以下）、抗Sm抗体陽性、CH50 19 IU/l（基準30~40）。腹部造影CTとCT後に撮影した腹部エックス線写真を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 腎盂腎炎
- b 尿路結石症
- c ループス腹膜炎
- d サルコイドシス
- e 上腸間膜動脈閉塞症



腹部造影CT



腹部エックス線写真

50 78歳の男性。食欲低下を認めたため近医を受診した。診察上、臍部に拍動性腫瘍を認め、腹部血管超音波で施行し、径60 mm大の腹部大動脈瘤を認め紹介となった。腹部造影CTを示す。

治療法はどれか。2つ選べ。

- a 動脈塞栓術
- b 血栓溶解療法
- c スtent留置術
- d 人工血管置換術
- e スtentグラフト内挿術



腹部造影CT

51 日齢1の新生児。在胎37週に正常頭位分娩にて出生。出生体重は2,550 g、身長は46 cm、アプガースコアは1分値が6点、5分値が8点であった。生後、呼吸障害はないが筋緊張低下と哺乳力微弱を認め、Levine III度の収縮期性心雑音を第3肋間胸骨左縁に聴取する。肝脾腫は認めないが腹部膨満があり、胎便の排泄はまだ無い。顔貌は眼瞼斜上、内眼角贅皮、小さい鼻、舌の挺出がみられ、両手掌に猿線および第5指単一屈曲線を認める。

正しいのはどれか。

- a 積極的な治療は行わない。
- b 腹部単純エックス線撮影をおこなう。
- c 遺伝子診断が有効である。
- d 猫の鳴き声のような甲高い声で泣く。
- e 性腺機能不全を合併する。

52 28歳の初産婦。妊娠31週5日に持続する水様性帯下を主訴に来院した。自然妊娠で、妊娠7週から定期的に健診を受けていた。児の成長は週数相当であった。受診時、体温37.1℃、脈拍74/分、整、血圧138/79 mmHg。15～20分間欠で下腹痛を認める。

まず、行う検査はどれか。

- a 尿検査
- b 血液検査
- c 超音波検査
- d 血圧の再検査
- e 腔内貯留物のpH検査

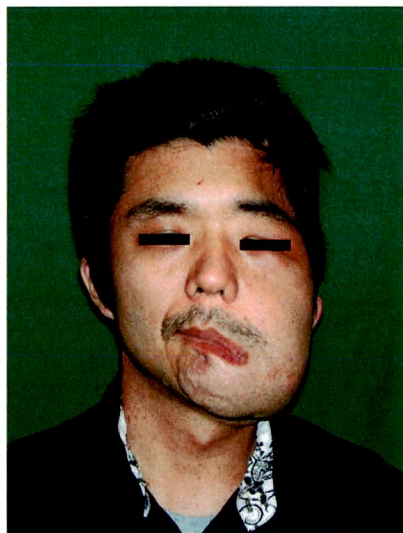
53 40歳の男性。小児期から全身の皮膚にあざを認めていた。成長とともに全身の皮膚に小豆大～母指頭大の腫瘍が多発するようになった。また中学生頃より顔面の変形も認めるようになった。両親には同様の症状を認めない。背部皮膚と顔貌の写真を示す。

本疾患で見られないのはどれか。

- a 骨変形
- b 神経線維腫
- c 木葉状白斑
- d pachydermatocoele
- e 常染色体優性遺伝



背部皮膚の写真

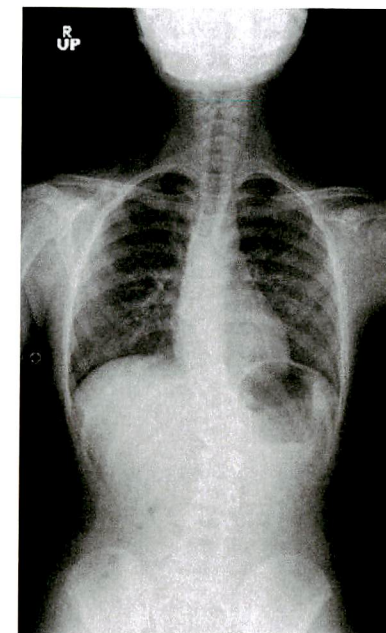


顔貌の写真

54 13歳の女子。生来健康である。全脊柱の単純エックス線写真を示す。

この疾患でチェックすべき点として適当でないのはどれか。

- a 肩の高さ
- b 肋骨隆起
- c 大腿周囲径
- d 肩甲骨の突出
- e ウエストのくびれの位置



全脊柱の単純エックス線写真

55 34歳の男性。火災現場で消火活動中に頭痛を訴え、その後意識障害が出現したため救急搬送された。来院時、JCS 100、瞳孔は3.0 mm左右同大、対光反射は迅速。脈拍114/分、整。血圧127/67 mmHg。呼吸数24/分。酸素飽和度100%。体温37.1℃。口腔内、鼻腔にはススの付着を認め、皮膚は鮮紅色であった。

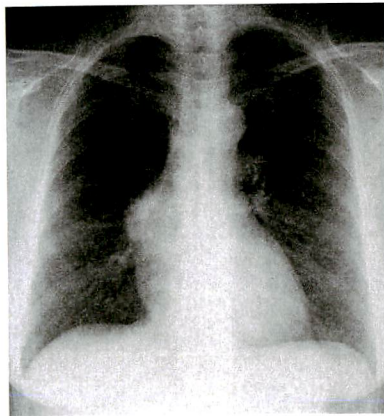
この患者の血液検査所見で考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a BUNの上昇
- b PaCO₂の上昇
- c カルシウムの上昇
- d 代謝性アシドーシス
- e アニオンギャップの開大

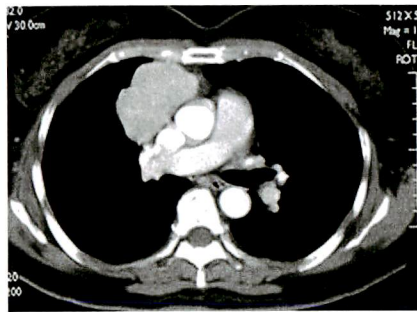
56 43歳の女性。健康診断で胸部異常陰影を指摘され来院した。3か月前から夕方になると物が二重に見えるようになるが翌朝は改善するため放置していた。胸部エックス線写真と胸部造影CTを示す。

診断に有用な検査はどれか。

- a 心電図
- b 眼底検査
- c 誘発筋電図
- d 神経伝導速度
- e 気管支鏡検査



胸部エックス線写真



胸部造影CT

57 日齢5日の新生児。在胎38週5日、2,900gで出生した。多呼吸を主訴に来院。心エコー検査を施行したところ重度の大動脈縮窄症、動脈管開存、左室肥大を認めた。心室中隔欠損症は認めなかった。受診時の右上肢動脈酸素飽和度は98%、下肢動脈酸素飽和度は85%であった。

この症例について正しいのはどれか。

- a 直ちに動脈管を閉鎖する必要がある。
- b 狭窄部切除端々吻合術の適応である。
- c Blalock-Taussig短絡手術の適応である。
- d 鎖骨下動脈フラップ法の適応はない。
- e 体の成長を待って待機的に手術を行う。

58 20歳の男性、大学生。基礎疾患なし。工事現場付近を歩行中、積まれていた工事資材が崩れ、数人が巻き込まれ受傷。救急搬送され検査を受けた。肺、肝臓を損傷、右上下肢を骨折していたが、頭部に損傷はなかった。後日この事故で死者が出たと聞かされた。傷が治療されリハビリを進めていたところから、事故を受けた時の情景がたびたび思い起こされるようになった。

この症例にみられるのはどれか。

- a 強迫観念
- b 妄想知覚
- c 広場恐怖
- d 思考吹入
- e 侵入的再体験

59 77歳の男性。認知症があり特別養護老人ホームに入所している。全身の激しい痒みを主訴に来院した。2か月前から全身に痒みがあり、最近痒みによる夜間不眠も訴えている。体幹および外陰部に痒疹や丘疹が多発していた。手掌には灰白色の線状の鱗屑を多数認めた。内服薬はない。血液検査所見では肝機能および腎機能障害を認めない。線状の鱗屑から採取した検体の顕微鏡写真を示す。

治療として正しいのはどれか。

- a 免疫抑制薬外用剤
- b アシクロビル内服
- c イベルメクチン内服
- d セフェム系抗菌薬内服
- e 腎皮質ステロイド薬内服

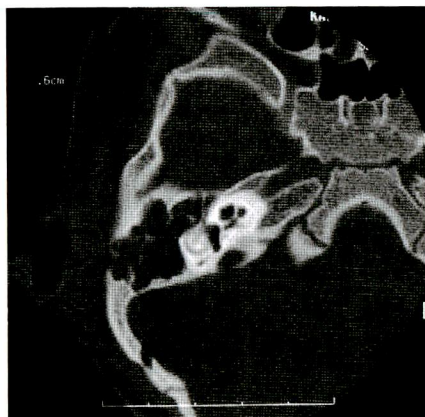


検体の顕微鏡写真

- 60 1歳6か月の男児。1週間前に感冒に罹患し、発熱があった。近医にて内服薬を投与され一時軽快したが、2日前より再び発熱し不機嫌になった。今朝より右耳介後部が発赤腫脹し耳漏が出てきた。耳鏡所見では鼓膜および外耳道後上壁に発赤と腫脹が認められた。鼓膜には穿孔が認められ拍動性の耳漏流出を認めた。緊急で撮影した単純CT所見を示す。

最も適切な治療はどれか。

- a 鼓室形成術
- b 中耳根治術
- c 鼓膜切開術
- d 乳突洞削開術
- e 鼓膜換気チューブ挿入術

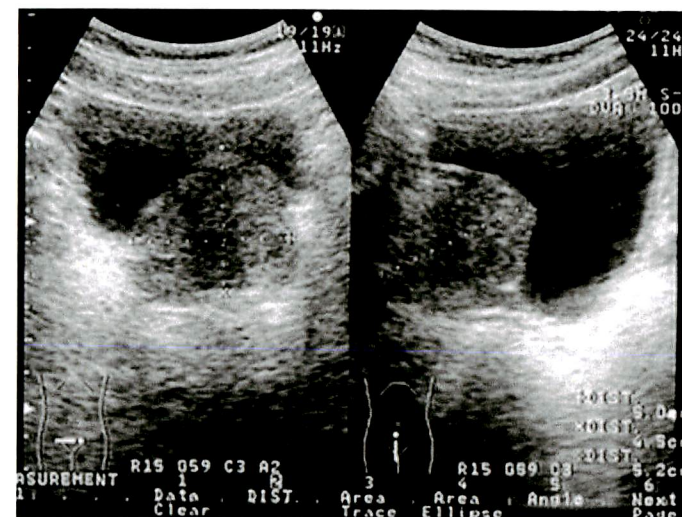


単純CT所見

- 61 64歳の男性。2年前からの頻尿と排尿困難を主訴に来院した。直腸診で前立腺は鶏卵大で、硬結や圧痛は認めない。尿所見と血液所見とに異常は認めない。PSA 2.1 ng/ml (基準 4.0 以下)。国際前立腺スコア 15 点 (軽症 0~7、中等症 8~19、重傷 20~35)。QOLスコア 4 点 (軽症 0~1、中等症 2~4、重傷 5~6)。腹部超音波写真を示す。前立腺の長径は 50 mm、短径は 45 mm、前後径は 52 mm であった。

次に行うのはどれか。

- a 1 遮断薬投与
- b 抗コリン薬投与
- c 経直腸的前立腺生検
- d 経尿道的な前立腺切除術
- e 恥骨後式根治的前立腺摘除術

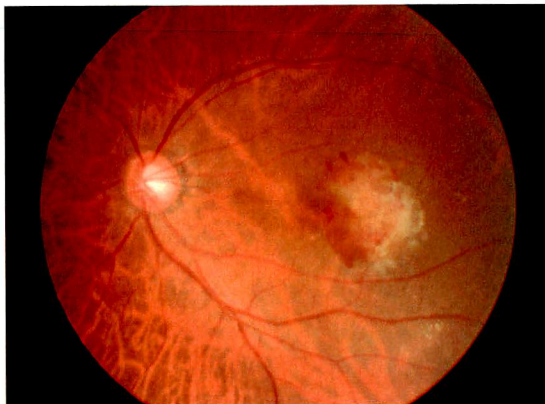


腹部超音波写真

- 62 63歳の男性。左眼の視力低下を訴えて来院した。6か月前より左眼の変視症を自覚している。視力は右0.8(矯正不能)、左0.06(矯正不能)。左右眼に白内障を認める。眼圧は右15 mmHg、左16 mmHg。右眼底に異常を認めない。左眼眼底写真を示す。

考えられるのはどれか。

- a 糖尿病網膜症
- b 加齢黄斑変性症
- c 網膜中心静脈閉塞症
- d 脈絡膜悪性黒色腫
- e Vogt-小柳-原田病



左眼眼底写真

- 63 82歳の女性。一昨日から体調を崩し自宅で仰臥位のまま寝たきりとなり搬送された。仙骨部の写真を示す。

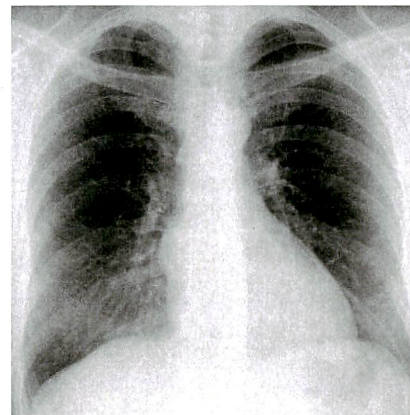
誤っているのはどれか。

- a 便汚染に注意する。
- b 十分に乾燥させる。
- c 栄養状態に注意する。
- d エアーマットを使用する。
- e 2時間ごとの体交を行う。

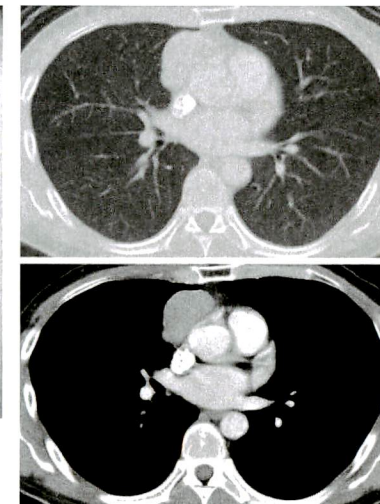


仙骨部の写真

- 64 68歳の男性。易疲労性および複視を主訴に来院した。意識は清明。身長 165 cm、体重 73 kg。体温 36.7℃。呼吸数 13 回/分。脈拍 67 回/分、整。血圧 128/74 mmHg。全方向で複視を認めるが、瞳孔は左右同大で対光反射は正常である。頸部屈筋と四肢近位筋に筋力低下を認め、握力は両側22kg。筋萎縮はなく、深部腱反射は正常。感覚障害と自律神経障害はない。尿所見：蛋白(－)、糖(－)。血液所見：赤血球 384万、Hb 11.7 g/dl、Ht 37%、白血球 7,219。血清生化学所見：総蛋白 7.0 g/dl、アルブミン 4.5 g/dl、総ビリルビン 0.3 mg/dl、AST 25 IU/l、ALT 20 IU/l、LDH 199 IU/l (基準 119～229)、CRP 0.1 mg/dl。胸部エックス線写真正面像と造影CTを示す。



胸部エックス線写真正面像



造影CT

この患者の診断に有用なのはどれか。

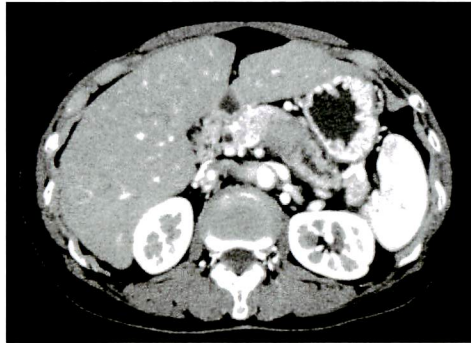
- a 針筋電図
- b ポリグラフィ
- c 誘発筋電図
- d 神経伝導速度
- e 脳幹誘発電位

65 60歳の女性。持続する背部の疼痛があり、体重が1か月で5kg減少したため来院した。発熱なし。腹部は平坦。圧痛はなく腫瘍を触知しない。

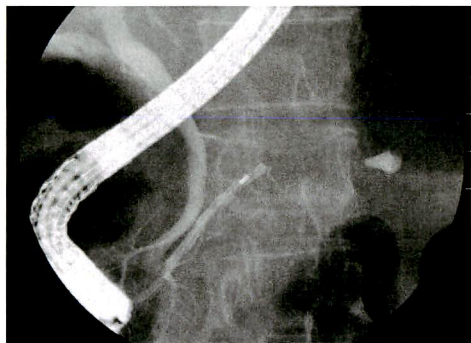
血液所見：赤血球350万、Hb 12.0 g/dl、白血球 6,500、血小板 22.4万。血液生化学所見：総ビリルビン 0.8 mg/dl、AST 32 単位、ALT 28 単位、空腹時血糖 92 mg/dl、アミラーゼ 76 単位、CEA 1.2 ng/dl（基準5以下）、CA19-9 886 単位（基準37以下）。腹部造影CT検査、ERCP写真を示す。

適切な治療方法はどれか。

- a 膵分節切除術
- b 膵体尾部切除術
- c 乳頭括約筋形成術
- d 膵頭十二指腸切除術
- e 十二指腸温存膵頭切除術



腹部造影CT検査



ERCP写真